

講演－1

平成28年度 森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会

地域と学校の連携・協働の推進について

～幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(中教審答申)も踏まえ～



文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室

室長 渡辺 栄二



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた 学校と地域の連携・協働の在り方や今後の推進方策について(中教審答申)の概要

(H27.12.21)

背景

- 地域の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性が指摘されており、**地域の教育力の充実**が必要
- 学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教職員のみならず**社会総掛かりで対応**する必要
- これからの厳しい時代を生き抜く力の育成、地域から信頼される学校づくり、社会的な教育基盤構築等の観点から、**学校と地域がパートナーとして連携・協働**するための組織的・継続的な仕組みが必要

主な課題

【コミュニティ・スクール】

- 現在2,389校(約6%)にとどまっており、**更なる推進の加速**が必要
- 元々、学校のガバナンス強化を目的に導入された制度であるが、**学校を応援する存在**とする必要
- 学校運営の責任者である**校長のリーダーシップ**をより一層発揮させる必要
- 教職員の任用に関する意見によって、人事が混乱するのではとの**懸念を払拭**する必要

【地域における学校との協働体制】

- 子供を育て、地域を創るため**地域の教育力を向上し、持続可能な地域社会**を創ることが必要
- 地域と学校が連携・協働して、**地域全体で子供たちの成長を支える活動の全国的な推進**が必要
- 従来の**学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動を総合化・ネットワーク化**することが必要
- 地域住民や学校との連絡調整等を担う**コーディネート機能の強化**が必要

【両者の一体的推進】

- 両者の体制が、相互に補完し高め合う存在として、**両輪となって相乗効果を発揮**していくことが必要
- 学校や地域の実情、両者の有機的な接続の観点等を踏まえた体制の構築が重要

今後の地域における学校との協働体制の在り方について（中教審答申のポイント）

教育再生実行会議第6次提言（平成27年3月）

地域と相互に連携・協働した活動を展開するための抜本的な方策の推進が必要

中央教育審議会答申（平成27年12月）

従来の学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動を基盤に、「**地域学校協働本部**」を全ての地域に整備し、地域全体で学び合い未来を担う子供たちの成長を支える活動（**地域学校協働活動**）を推進する。

体制の改善	現状・課題	提言内容
①「 地域学校協働活動 」の推進	・ 少子高齢化、地域の教育力の低下、学校が抱える課題は複雑化・困難化に対応し、<u>社会総掛かりでの教育の実現を図る必要がある</u>。 ・ これまでの学校支援地域本部や放課後子供教室等の取組を通じ、学校と地域の関係構築につながるなど、<u>一定の成果は評価</u>。 ・ 一方、学校支援活動や放課後子供教室、土曜日の教育活動等の活動間の連携が十分でない等の課題あり。 ・ 地域住民が学校のパートナーとしてより主体的に参画し、<u>地域と学校との関係を新たな関係（連携・協働）に発展させることが必要</u>。	◆ 地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動を「地域学校協働活動」として積極的に推進。 ◆ 「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を目指す新たな体制としての「地域学校協働本部」を全国的に整備 ➡ 教育委員会による地域学校協働活動推進のための体制整備について法令上明確化
② コーディネーター機能の強化	・ 学校と地域のコーディネーターの下で、<u>特定の個人に依存するなど持続可能な体制ではない等の課題あり</u>。	◆ 「地域コーディネーター」（地域住民や学校との連絡調整を実施）及び「統括的なコーディネーター」（複数のコーディネーターとの連絡調整等を実施）の配置や機能強化（持続可能な体制の整備、人材の育成・確保、質の向上等）を推進。

（※）その他、地域学校協働活動の推進に向けた財政支援、普及啓発、事例集作成等の方策について提言。

1. 「次世代の学校・地域」創生プランの目指す方向

一億総活躍社会の実現！ 地方創生の推進！

我が国が抱える主な課題

高齢者人口は増大する一方で生産年齢人口は減少

グローバル化の進展に伴い激しく国際環境は変化

学校の抱える課題は著しく複雑化・多様化

地域社会の支え合いの希薄化、家庭の孤立化

「次世代の学校・地域」の創生を車の両輪として課題を克服！

「次世代の学校・地域」の創生

学校

- 「社会に開かれた教育課程」の実現
 - 知識・技能とそれを活用する力、他者と協働する力の育成
 - アクティブ・ラーニングの視点に立った学びの推進
- 「次世代の学校」創生に必要な指導体制の質・量両面での充実
 - 教員が生涯を通じて研鑽できる環境づくり
 - いじめや不登校、発達障害等に教員と心理・福祉等の専門スタッフが連携・分担して対応
- 「地域とともにある学校」への転換

地域

- 次代の郷土をつくる人材の育成
 - 地域の資源を学校教育、社会教育に活かす
- 学校を核としたまちづくり
 - 生徒と地域住民が主体的に課題を発見・解決し、地域課題に向き合う
- 地域で家庭を支援し、子育てできる環境づくり
 - 放課後・早朝の子供の居場所、学習・部活動支援
- 学び合いを通じた社会的包摂
 - 若者・大人も子供・地域のためにできることを考え、自己実現

馳プラン
を策定！

中央教育審議会3答申(平成27年12月21日)の内容の具体化を強力に推進

- 「次世代の学校・地域」が両輪となった体系的な施策を展開！
- 文部科学省として今後取り組むべき具体的施策と改革工程表を明示！

2. 「次世代の学校・地域」創生プランの具体的施策

「次世代の学校・地域」
の創生に向け
一体改革として
＜3本の矢＞を放つ！

地域と学校の連携・協働に向けた改革（コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の推進）

学校の組織運営改革（「チーム学校」に必要な指導体制の整備）

教員制度の一体的改革（子供と向き合う教員の資質能力の向上）

「次世代の学校・
地域」の創生

「次世代の学校・地域」の創生に向けた具体的施策

地域と
学校の
連携・協働
に向けた
改革

□ コミュニティ・スクール(CS)を推進・加速する！

- 学校運営協議会の設置の努力義務化、教職員の任用に関する意見の柔軟化等（法改正）
- CS導入に伴う学校の体制強化、類似の取組からの移行支援等（予算等）
- 首長や教育長への働き掛け強化等（マニュアルの策定や教育委員会規則の制定推進等）

□ 地域学校協働活動を地域創生の基盤に！

- 教委による地域学校協働活動推進のための体制整備（法改正）
- 若者から高齢者までが活躍し地域を創生する場として、地域学校協働本部を全小中学校区をカバーして整備
- 郷土学習、地域行事等の地域学校協働活動を支援
- 放課後子供教室・家庭教育支援の充実による子育て環境の整備
- 先進事例の収集・発信、全国フォーラム等の開催（以上、予算等）

学校の
組織運営
改革

□ 教職員の指導体制を充実する！

- 平成32年度からの指導要領の全面実施を踏まえた指導体制の充実（法改正・予算等）

□ 専門性に基づくチーム体制を構築する！

- SCやSSW等専門職員の職務の明確化・配置促進（法令改正・予算等）

□ 学校のマネジメント機能を強化する！

- 主幹教諭の配置充実（予算等）、事務体制の強化（法改正・予算等）等

□ 地域が学校のパートナーとして子供の教育に関わる！

- 地域コーディネーターと地域連携担当教職員（仮称）の配置の促進（法令改正・予算等）
- 教員が子供と向き合う時間の確保
- 学校施設の有効利用、管理の工夫による地域への学校開放の促進

教員制度
の
一体改革

□ 大学での養成を充実する！

- 教職科目の大括り化（法改正）、学校インターンシップ制度化（省令改正）等

□ 教員研修を充実する！

- 教員研修計画の整備（法改正）、メンター方式実施（予算等）等

□ キャリアシステムを構築する！

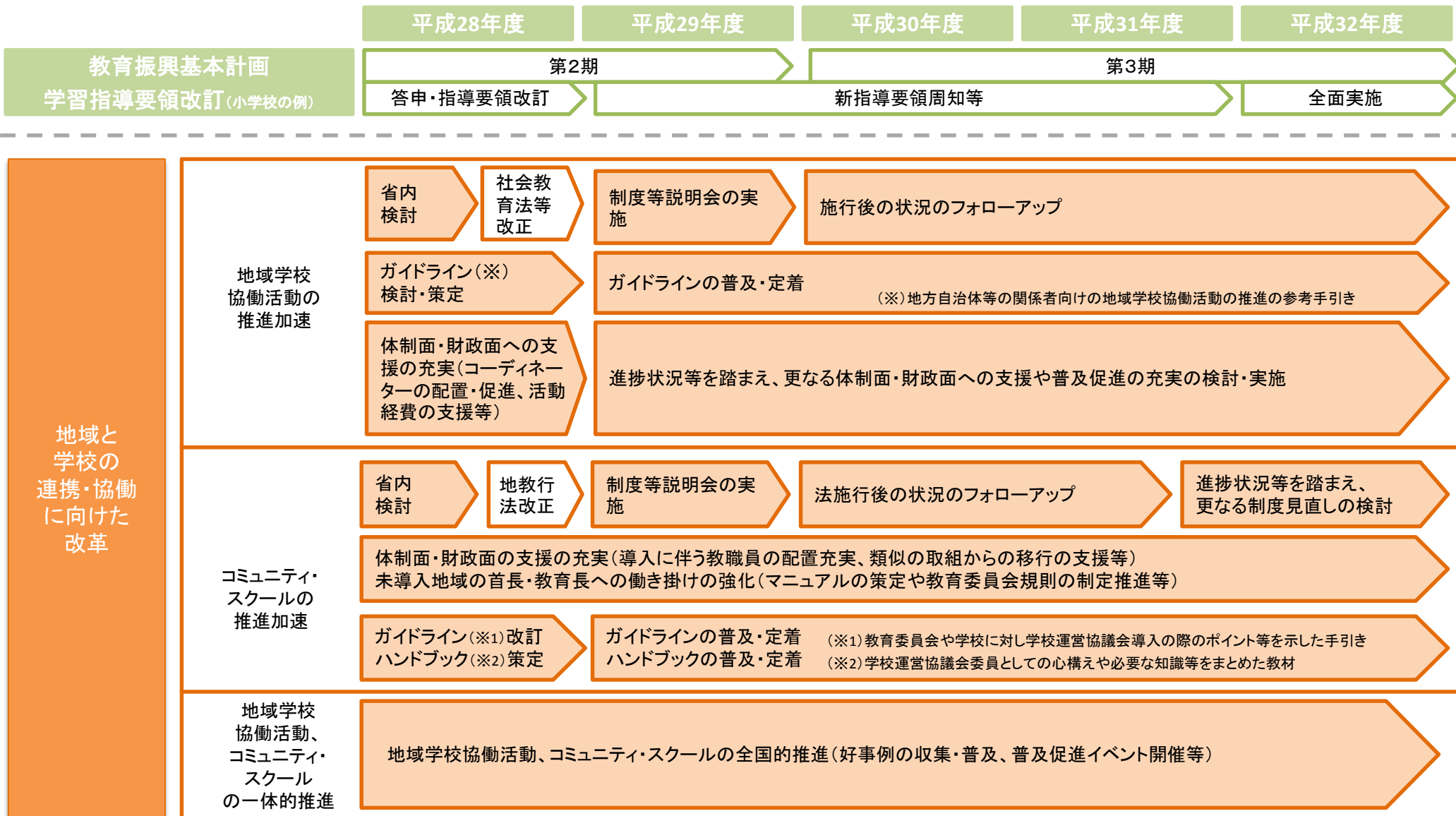
- 教員育成協議会の構築、教員育成指標の整備（法改正）等

□ 地域と連携・協働する教員の養成・研修！

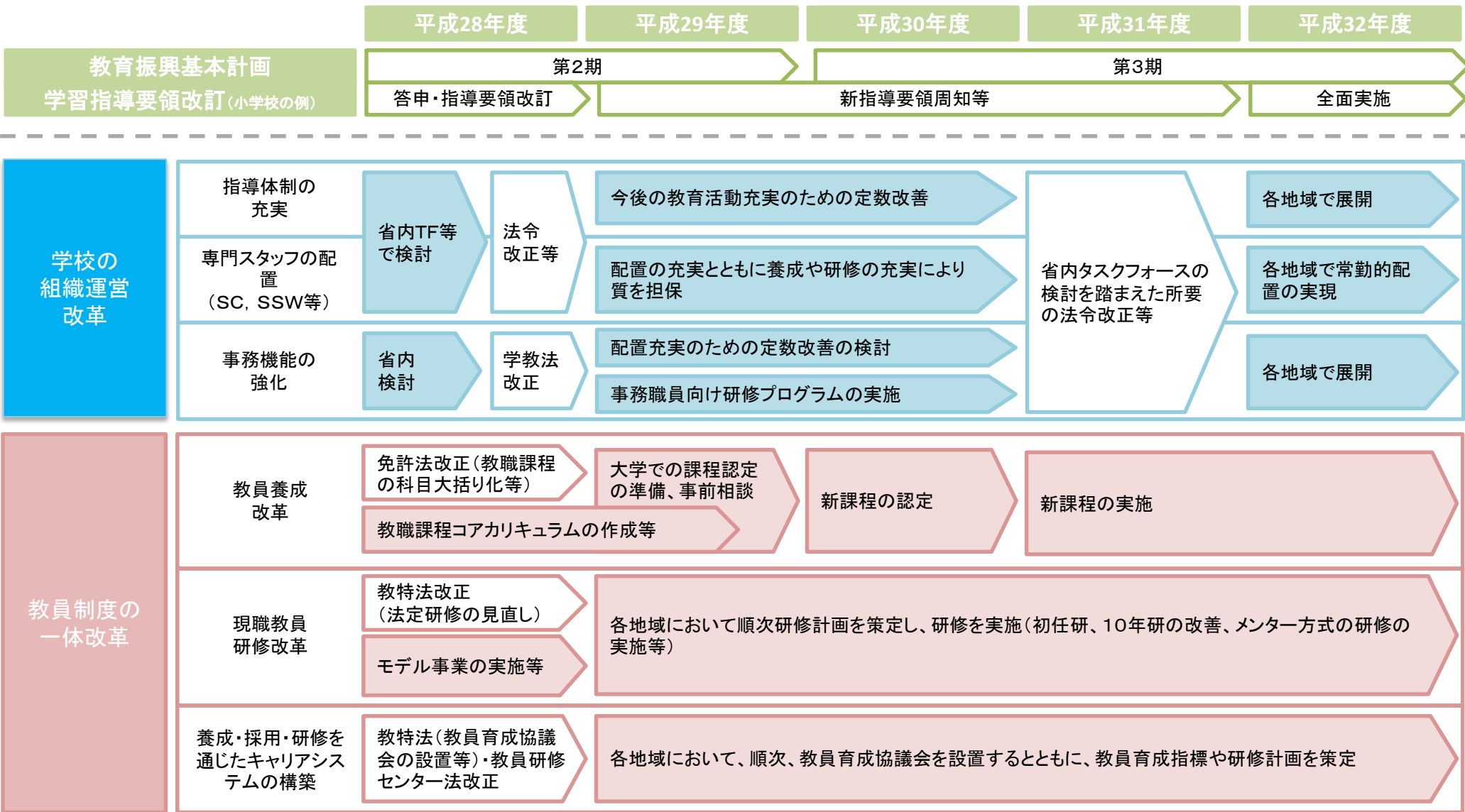
- 地域との連携・協働を円滑に行うための養成・研修の充実
- 教員を目指す学生の放課後子供教室、土曜学習等への参加の拡大
- 地域課題を題材にしたアクティブ・ラーニングの視点に立った学びやICTを活用した学びの推進

改革工程表に基づき施策を計画的に展開し、「次世代の学校・地域」の創生を着実に実現！

3. 「次世代の学校・地域」創生プラン一体改革工程表①



3. 「次世代の学校・地域」創生プラン一体改革工程表②



「次世代の学校・地域」創生プラン

～中教審3答申の実現に向けて～

平成28年1月25日

文部科学大臣決定

答申③←教育再生実行会議第7次提言

教員改革 (⇒資質向上)

養成・採用・研修を通じた
不断の資質向上

現職研修改革

- ベテラン段階
 - ・管理職研修の充実
 - ・マネジメント力強化
- 中堅段階
 - ・ミドルリーダー育成
 - ・免許更新講習の充実
- 1～数年目
 - ・チーム研修等の実施
 - ・英語・ICT等の課題へ対応

採用段階の改革

- ・採用試験の共同作成
- ・特別免許状の活用

養成段階の改革

- ・インターンシップの導入
学校現場や教職を早期に体験
- ・教職課程の質向上

教員育成指標

育成指標策定指針

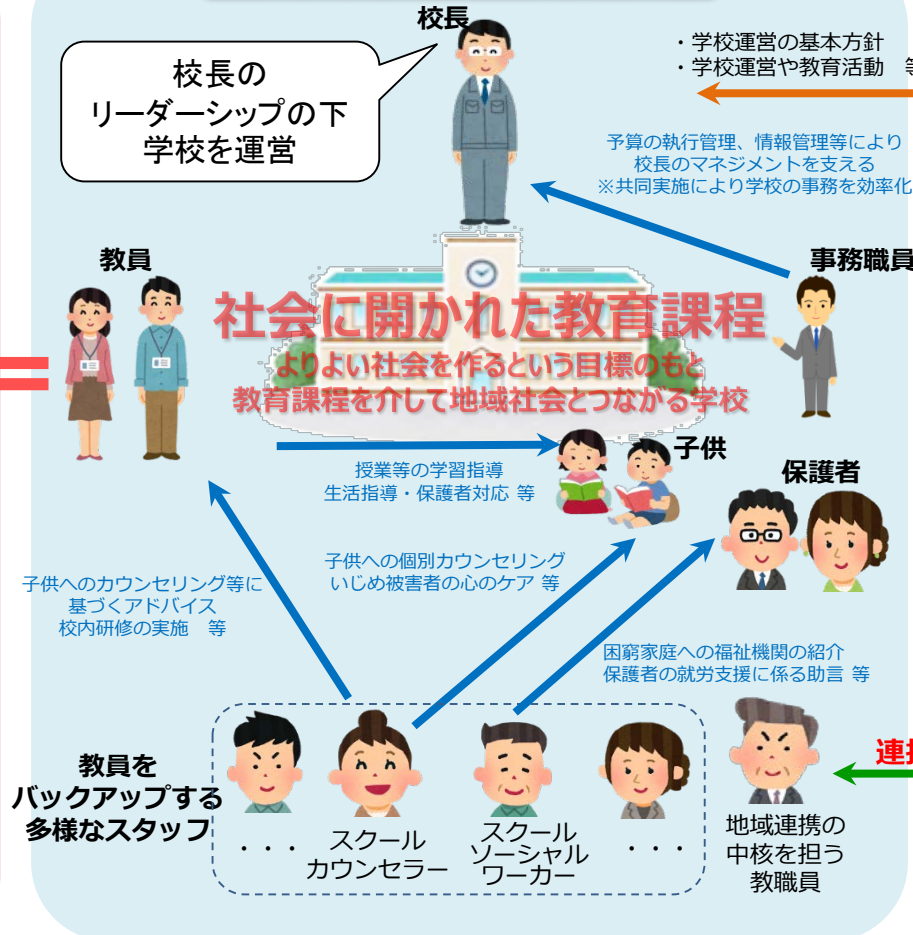
←都道府県が策定

←国が大綱的に提示

要・法改正：免許法、教員センター法、教職法

答申②←教育再生実行会議第7次提言

学校の組織運営改革 (⇒チーム学校)



要・法改正：学校教育法、地方教育行政法

答申①←教育再生実行会議第6次提言

地域からの学校改革・地域創生 (⇒地域と学校の連携・協働)

コミュニティ・スクール



- ・校長のリーダーシップを応援
- ・地域のニーズに応える学校づくり

要・法改正：地方教育行政法

地域学校協働本部



保護者・地域住民・企業・NPO等

地域の人々が学校と連携・協働して、
子供の成長を支え、地域を創生

学校を核とした地域の創生
次代の郷土をつくる人材の育成、まちづくり

連携・協働

地域コーディネーター

「地域学校協働活動」の推進

- ・郷土学習・地域行事・学びによるまちづくり
- ・放課後子供教室・家庭教育支援活動 等

要・法改正：社会教育法

「次世代の学校」の創生に必要な教職員定数の戦略的充実

子供たちが自立して活躍する「一億総活躍社会」「地方創生」の実現

これからの教育課程の理念

「社会に開かれた教育課程」の実現

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の 視点からの授業改善)について

「**主体的・対話的で深い学び**」に向けた**授業改善**を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や**地域の人との対話**、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

学習指導要領総則の構造とカリキュラム・マネジメントのイメージ

教育課程の構造や、新しい時代に求められる資質・能力の在り方、アクティブ・ラーニングの考え方等について、**すべての教職員**が校内研修や多様な研修の場を通じて理解を深めることができるよう、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の視点から学習指導要領の要であり、教育課程に関する基本原則を示す「総則」を抜本的に改善し、必要な事項を分かりやすく整理。

何ができるようになるか

○ 小学校教育の基本

何が身に付いたか

○ 学習評価を通じた学習指導の改善

子供の発達を
どのように支援するか

- 児童の発達の支援
- 特別な配慮を必要とする生徒への指導

何を学ぶか

○ 教育課程の編成

どのように学ぶか

○ 教育課程の実施

実施するために何が必要か

○ 学校の指導体制の充実

○ 家庭・地域との連携・協働

第10章 実施するために何が必要か～学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策～

1. 「次世代の学校・地域」創生プランとの連携

- (「次世代の学校・地域」創生プラン) は、「社会に開かれた教育課程」の実現を中心に据えつつ、学校については、その実現に必要な学校の指導体制の質・量両面での充実や、地域とともにある学校への転換を、地域については、**次代の郷土をつくる人材の育成**や、**学校を核としたまちづくり**等を一体的に進め、**学校を核として地域社会が活性化**していく「次世代の学校・地域」を創生していこうとするものであり、今後、その進展と軌を一にしながら教育課程の改善を進めていく必要がある。

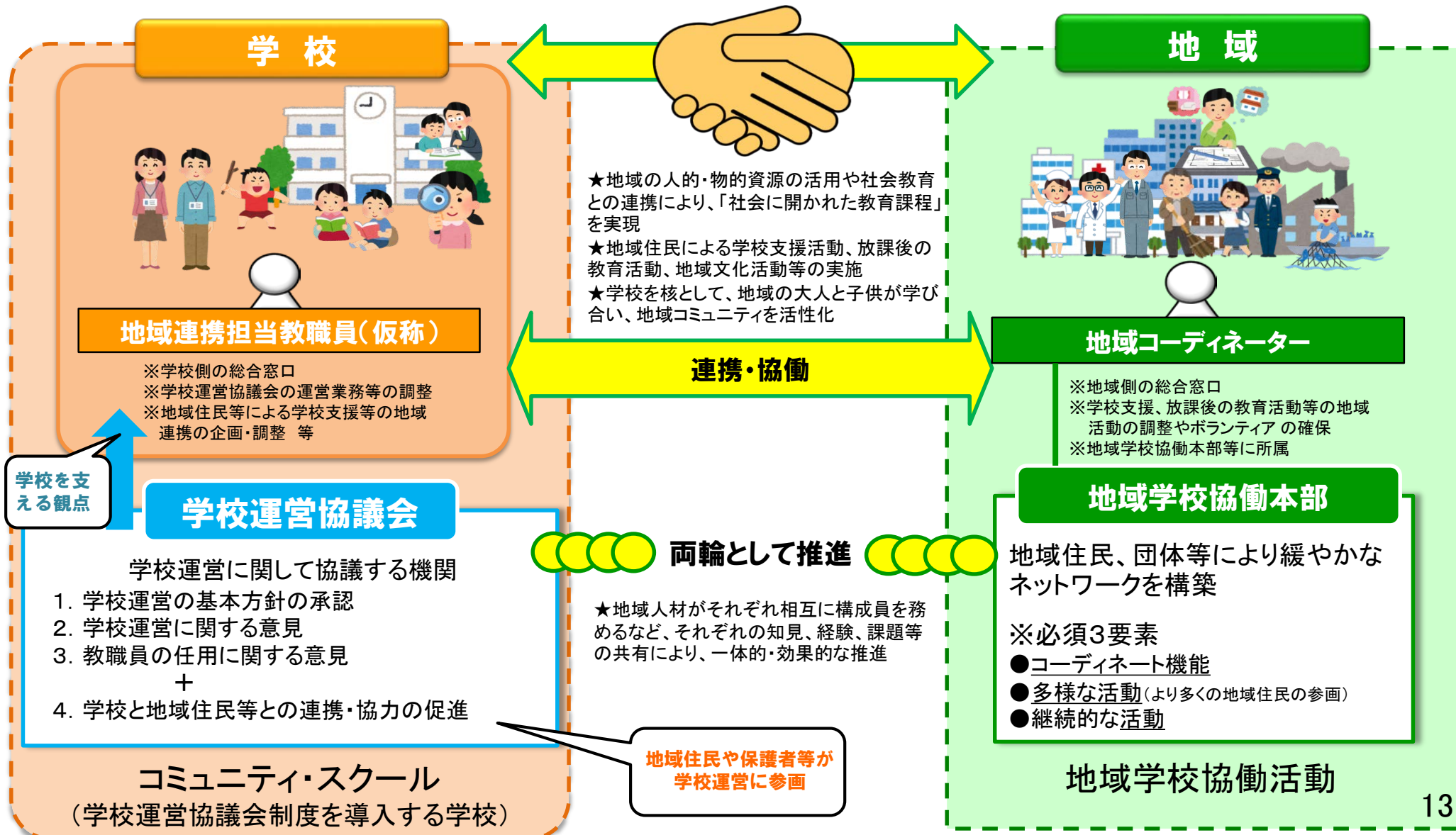
3. 社会との連携・協働を通じた学習指導要領等の実施

(家庭・地域との連携・協働)

- 学校がその目的を達成するためには、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、家庭や地域の人々とともに子供を育てていくという視点に立ち、**地域と学校の連携・協働の下、幅広い地域住民等**(多様な専門人材、高齢者、若者、P T A・青少年団体、企業・N P O等)とともに、**地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)**を進めながら、**学校内外を通じた子供の生活の充実と活性化を図る**ことが大切であり、学校、家庭、地域社会がそれぞれ本来の教育機能を発揮し、全体としてバランスのとれた教育が行われることが重要である。

学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制（イメージ）

ーパートナーシップの構築による新しい時代の教育、地方創生の実現ー

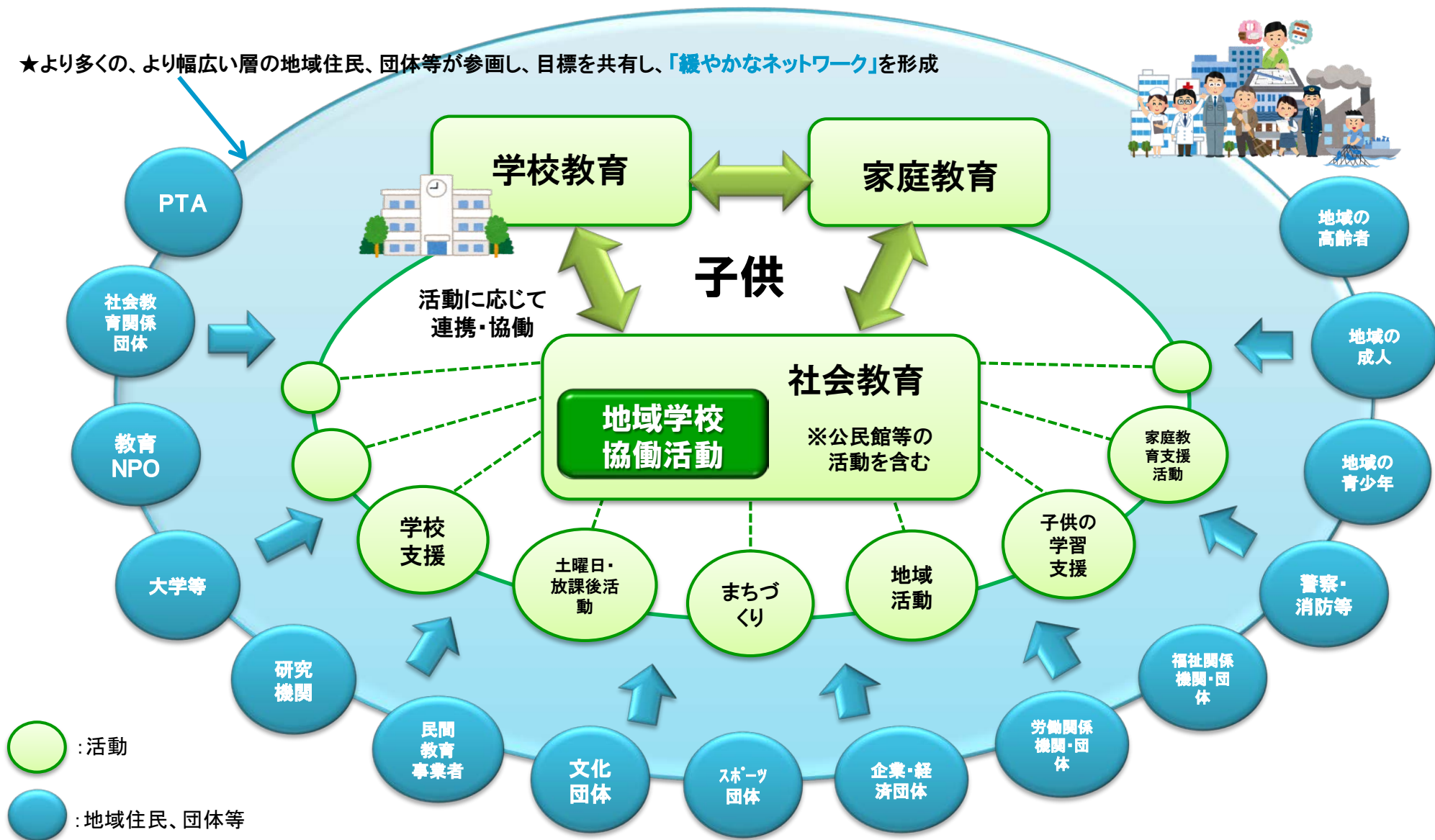


地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。

◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成

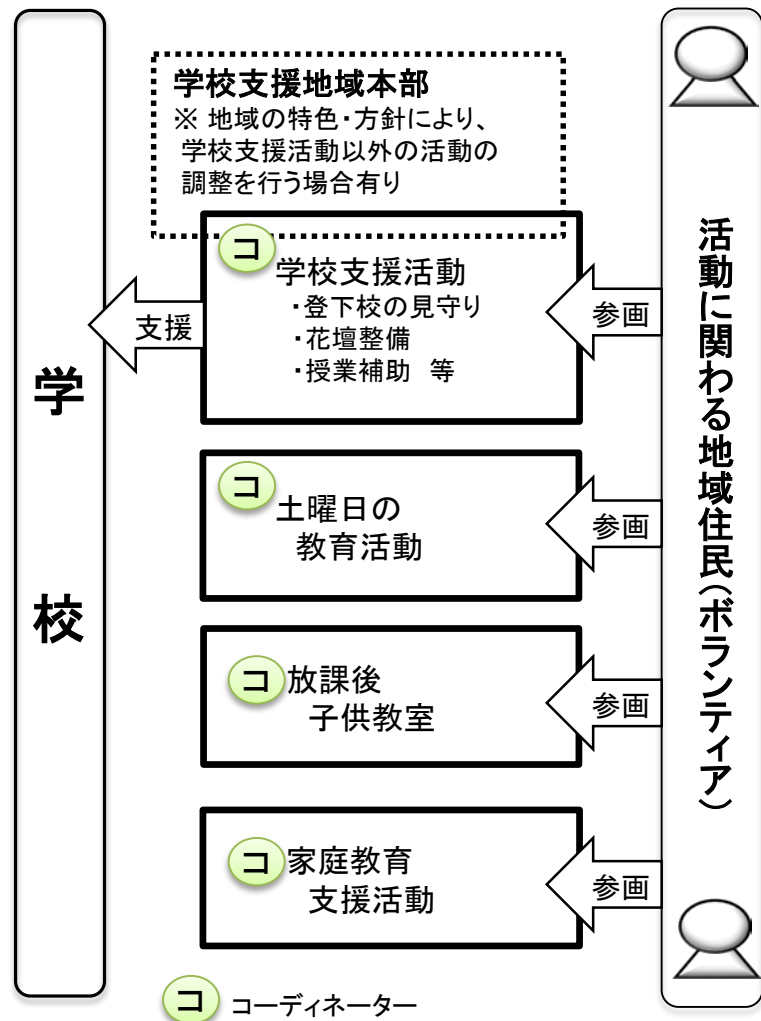


今後の地域における学校との協働体制（地域学校協働本部）の在り方 ～目指すべきイメージ～

現在

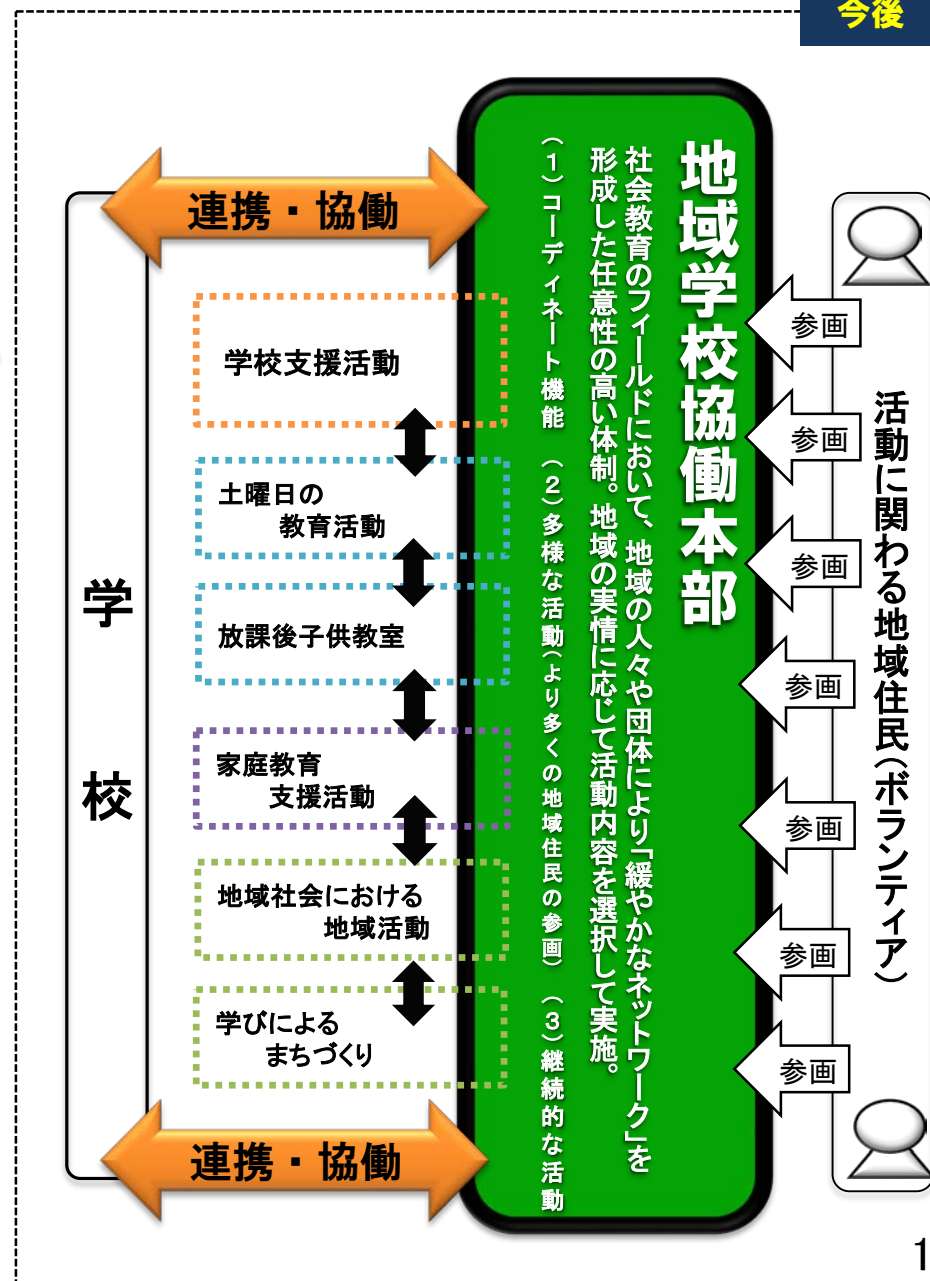
【これまでの課題】

- ・それぞれの活動ごとにコーディネートがなされ、必ずしも横の連携が十分でない。
- ・コーディネート機能の大部分を特定の個人に依存し、結果として、持続可能な体制がとられていない場合も多い。



- ・コーディネイト機能の充実
- ・個別の活動の総合化・ネットワーク化
- ・「支援」から「連携・協働」へ

今後



地域学校協働活動として期待される取組事例①

「ふるさと杉一」を意識し、学校・地域・保護者が一体となった学校支援（東京都杉並区立杉並第一小学校）

目的

- 杉並第一小学校を支援するために設置された、地域の人たちの学校応援団
- 地域から信頼される「力のある学校」づくりの支援
- 「わが街阿佐谷、ふるさと杉一」を意識し、学校・地域・保護者が一体となって多様な学校支援活動や放課後支援活動を行う仕組みを構築
- 杉一プラン独自の発想と協力体制による教育活動の更なる充実



【オープンキャンパスの風景】



【朝先生と百人一首】

取組の成果

- 「地域」を「杉一小の子供たちのために活動している人たち」「杉一小の教育活動に興味・関心をもっている人たち」と捉え、「地域」におけるネットワークをより充実させることで、学校をサポートする「地域」を育成することができた
- 近隣の学校支援本部と人材・施設等を含めた多角的な視点から連携し、「地域とともに歩む学校づくり」を目標に掲げる学校を支援しながら、子供のための取組を今後も実践していく

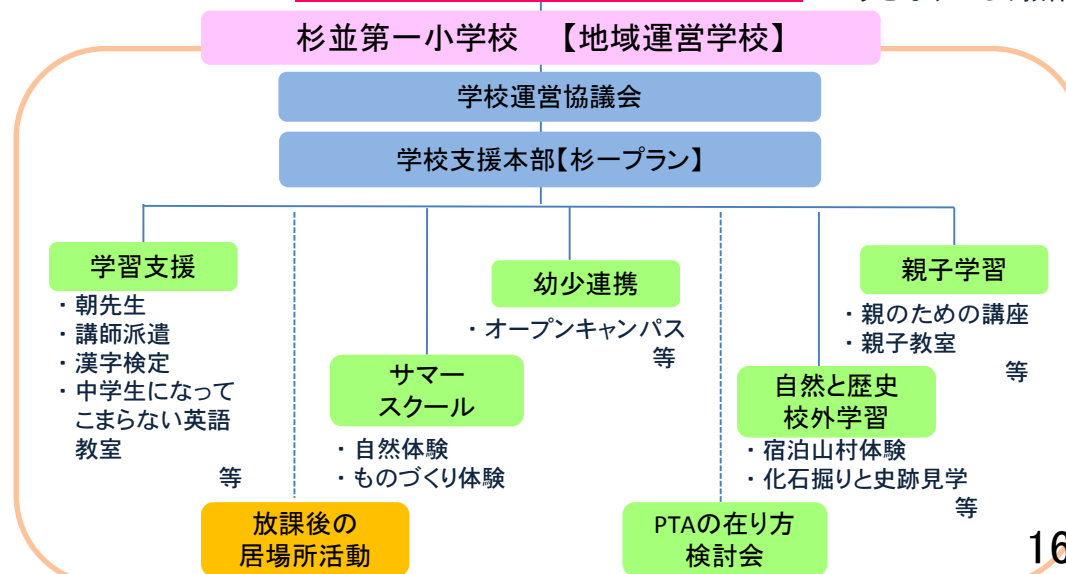
取組内容(例)

- ★朝先生・・・平成19年度から続く、授業開始前の朝の時間に地域住民が全クラスの朝学習に参画し、計算チャレンジや百人一首を指導。
- ★すぎっ子くらぶ・・・平成16年度から続く、放課後子供教室。学校の施設を利用し、毎日17時まで実施、約200名の子供の居場所となり、日本の昔遊び、路地裏遊び等を実施。スタッフは子育て経験の豊かな地域の住民。
- ★オープンキャンパス・・・幼保小(※)のスムーズな接続を目指した、小学1年生の担任による国語や算数の授業等を実施。

※・・・幼稚園、子ども園、保育園から小学校への接続を意味する

〈杉一プラン 組織図〉

※すぎなみHPより抜粋



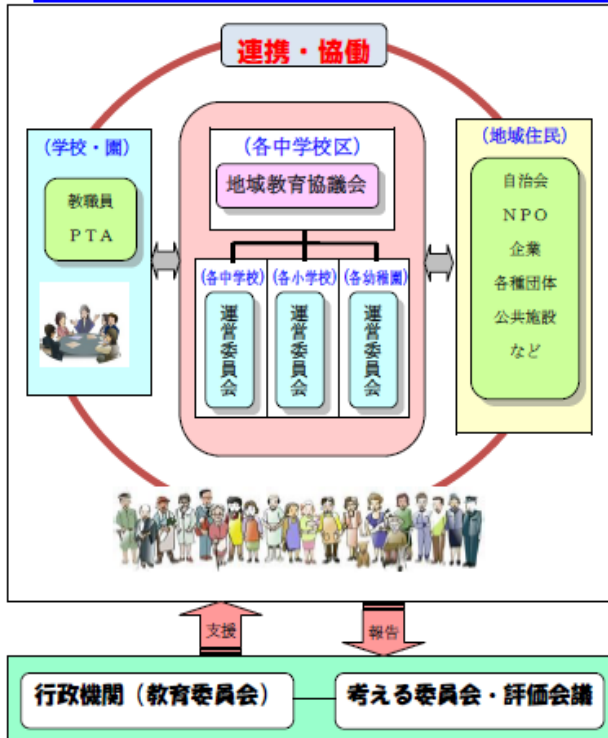
地域学校協働活動として期待される取組事例②

学区ブランド産品「富より団子」がつなぐ学校と地域

(奈良県奈良市)

概要

平成20年度に、市内全中学校区(22校区)に地域教育協議会(学校支援地域本部)を設置。富雄中学校区では、小中学生が地域資源を見直し、子供と地域の協働による学区ブランドづくり(小学生が栽培した古代米を使ったお団子の商品開発)を実施。地域コーディネーターが主体となって、商品化までの子供たちの活動をサポート。
※こうした各学区のブランドづくりを市内5校区で実施。



- ◆ 地域連携に参加したい小中学生が集まる、“ボランティア部”(コーディネーターが顧問)の発足や、米を育てた時に出土ワラを使った、しめ縄作り、団子を揚げた時に出る廃油を使ったエコ石けん作りなどに広く発展
⇒ これらの取組を地域コーディネーターが組織化。



- ◆ お団子の販路拡大に向けては、地域コーディネーターが地域企業に働きかけ、生徒たちがアイディアをプレゼン

【結果】

- 生菓子から日もちする冷凍食品として製造
- 駅周辺のレストランメニューへの追加やコンビニでの販売も実現
- 現在は、地域の行事や祭り、イベント等での販売も実現

- ◆ これらの取組は、子供たちの学びを支援することはもちろん、企業・団体や住民にとっても地域参画のきっかけ、学びの機会となっており、子供と共に育つ地域づくり(地域振興)が進んでいる。

子供の学びの場を創り出すため、PTA、自治会、民生、社会福祉協議会など既存の子供の支援を行ってきた組織に合わせ、関連部署や企業・団体など地域に支援の輪が広がった。

地域学校協働活動における自然体験事例①

土曜日の教育活動において外遊びを通じて「子供の生きる力」を育み、「地域の子育てコミュニティ」づくりの一役を担う取組が実施されている。

(岡山県勝央町勝間田小学校・勝央北小学校)

取組の概要・特色

- 土曜日の教育支援事業として外遊びを通じて、子供が創意工夫をし、挑戦し、失敗を経験することができる「冒険遊び場づくり」を実施している。
- 「森林ボランティアきのこの森」のメンバーやプレリーダー等幅広い世代が自分の特技を生かして参加している。
- 保護者の参加を原則としているが、姉弟の参加も受け入れているため、父親を含む一家での参加も多い。

実施にあたっての工夫

- 父親の参加を増やすため、「ものづくり」や「デイキャンプ」等父親の活躍の場を設ける工夫をしている。
- 「森林ボランティアきのこの森」や保護者など地気住民の協力を得ているが、世代間で考え方や伝えたいことが違うため、事前打ち合わせや振り返りの場を設けて互いの役割を確認している。このことがスムーズな運営につながっている。



「冒険遊び場づくり」外遊びから生まれるネットワーク

事業を実施して

- 保護者同士の交流や、地域住民とのコミュニケーションやネットワーク形成の場となっている。
- 「森林ボランティアきのこの森」や保護者など地気住民の協力を得ているが、世代間で考え方や伝えたいことが違うため、事前打ち合わせや振り返りの場を設けて互いの役割を確認している。このことが、スムーズな運営につながっている。

地域住民との協力による「持続可能な開発のための教育(ESD)」の取組

(神奈川県横浜市幸ヶ谷小学校)

横浜市幸ヶ谷小学校の取組概要

- 授業や学校生活などあらゆる場面でESDの視点を取り入れることで、子供たちが身近な課題を解決するため、「幸ヶ谷共育倶楽部」(学校支援地域本部)により、多くの地域住民と積極的に関わりを求めるようになり、未来の社会の担い手となる子供たちと一緒に持続可能な学校・持続可能なまちを育てる。



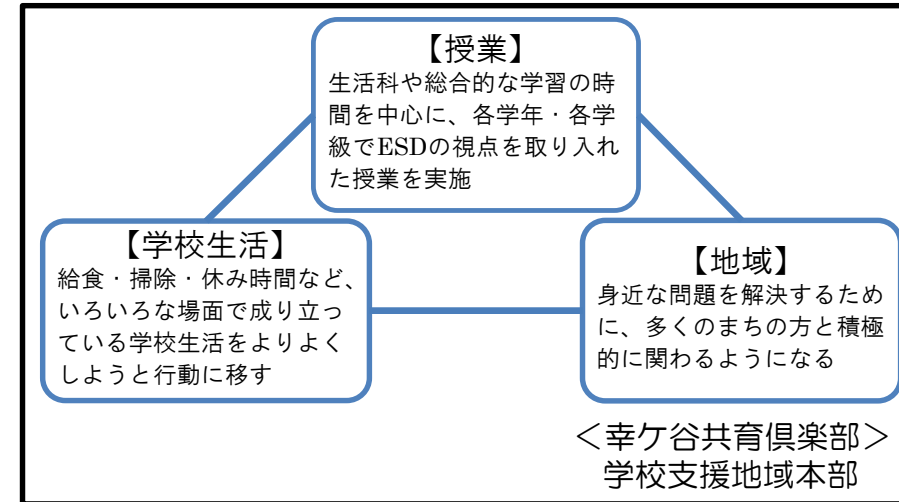
○ 活動内容例・活動の成果

1年生:あきとなかよし

地域の公園で自然物に触れ、自然の良さを体験。地域の幼稚園児や地域住民等との交流によりコミュニケーションが深まった。

4年生:幸ヶ谷未来遺産～守ろう 生き物たくさんの海～

宿泊体験学習で横浜唯一の自然の砂浜で生き物観察を実施。
活動を通して身近な地域の海を大切にしていきたいという思いが生まれた。



地域学校協働活動における自然体験事例③

土曜日の教育活動「そでさき元気っ子」では、地域の先生による川の水生生物調査など、地域の自然・文化・歴史などを生かした取組が実施されている。

(山形県村山市袖崎小学校)

取組の概要・特色

- 地域の自然・文化・歴史などを大切にし、地域の先生による川の水生生物調査や星の観察、地域のマイナスイメージになりがちな雪を遊びに十分に取り入れるなど、この地域でないと体験できない、地域に愛着がわく活動内容を多く取り入れている。
- 子供の社会力を育成するため、地元の創作劇集団「洗心座」と連携し大人と一緒に創作劇を作り上げたり、山形が発祥とされる「だがしや楽校」で対面販売などを経験したりして、考える力やコミュニケーション力、表現力が養われるような活動を実施している



自然満喫体験

実施にあたっての工夫

- 指導者側からの一方的な考えだけではなく参加者からの意見も聞きながら 内容を企画し、1か月に2回程度と無理のない回数で実施している。
- 小学生広報スタッフやかつての参加者だった中学生、高校生、大学生が中学生協力員やボランティアスタッフの一員として参加することで、将来の教室担い手育成や身近な地域の居場所づくりにつながっている。
- 地域に活動を周知するため、学校の協力を得ながら「小学生広報スタッフ」を募集し、広報紙『元気っ子新聞』(年1回発行)を編集している。



だがしや楽校

地域学校協働活動における自然体験事例④

四季を通じた自然の変化を生徒が観察する事で、自然に対する興味関心を高めるなど、地域の豊かな自然環境を生かした取組が実施されている。

(千葉県野田市福田中学校区学校支援地域本部)

取組の概要・特色

福田第一小学校、福田第二小学校、二ツ塚小学校の4校で、地域の人材による学校支援の充実を図っている。特に、豊かな自然環境を生かした「自然観察会(フィールドワーク)」が充実しており、四季を通じた自然の変化を生徒が観察することで、自然に対する興味関心を高め、生涯学習の基礎を築いている。また、講師として、専門家を多数招へいすることで充実した学習ができるように配慮している。

事業を実施して

- 意欲的に学ぶ生徒の育成(特に身の回りの自然に対して)に貢献できた。
- 夏休みに、公民館での学習会や自然観察会に参加するなど地域の環境を活用できている。
- 長期にわたる外部講師との連携により、児童生徒や職員に対して継続した支援ができている。
- 野田自然共生ファームの方から、「野田市の生態系保存の取り組み」について講演していただいている。
- 東京理科大生のボランティアによる、放課後の補習を実施している。



フィールドワークの様子



「夏休みこどもの学び舎」の様子

地域学校協働活動に関する参考事例

その他、参考となる事例について、下記の事例集に掲載されていますので、ぜひご活用下さい。

地域と学校の連携・協働の推進に向けた参考事例集



参考URL
<http://manabi-mirai.mext.go.jp/exam/2016.htm>



平成27年度地域による学校支援活動事例集



参考URL
<http://manabi-mirai.mext.go.jp/exam/commendation/2015.html>



学校を核として地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開することで、まち全体で地域の将来を担う子供たちを育成するとともに、一億総活躍社会と地方創生の実現を図る。



- ◆地域の实情に応じて、柔軟に事業を実施することができるよう、関連施策によるプランを推進。
- ◆学校を核とした地域力強化のための仕組みづくりや地域の活性化に直結する様々な施策等を地域の特色に応じて組み合わせて推進。

農山漁村等における体験活動において、地域人材や地域資源を活用することにより、異世代間交流や都市農村交流を図り、地域の活性化につなげる。

23

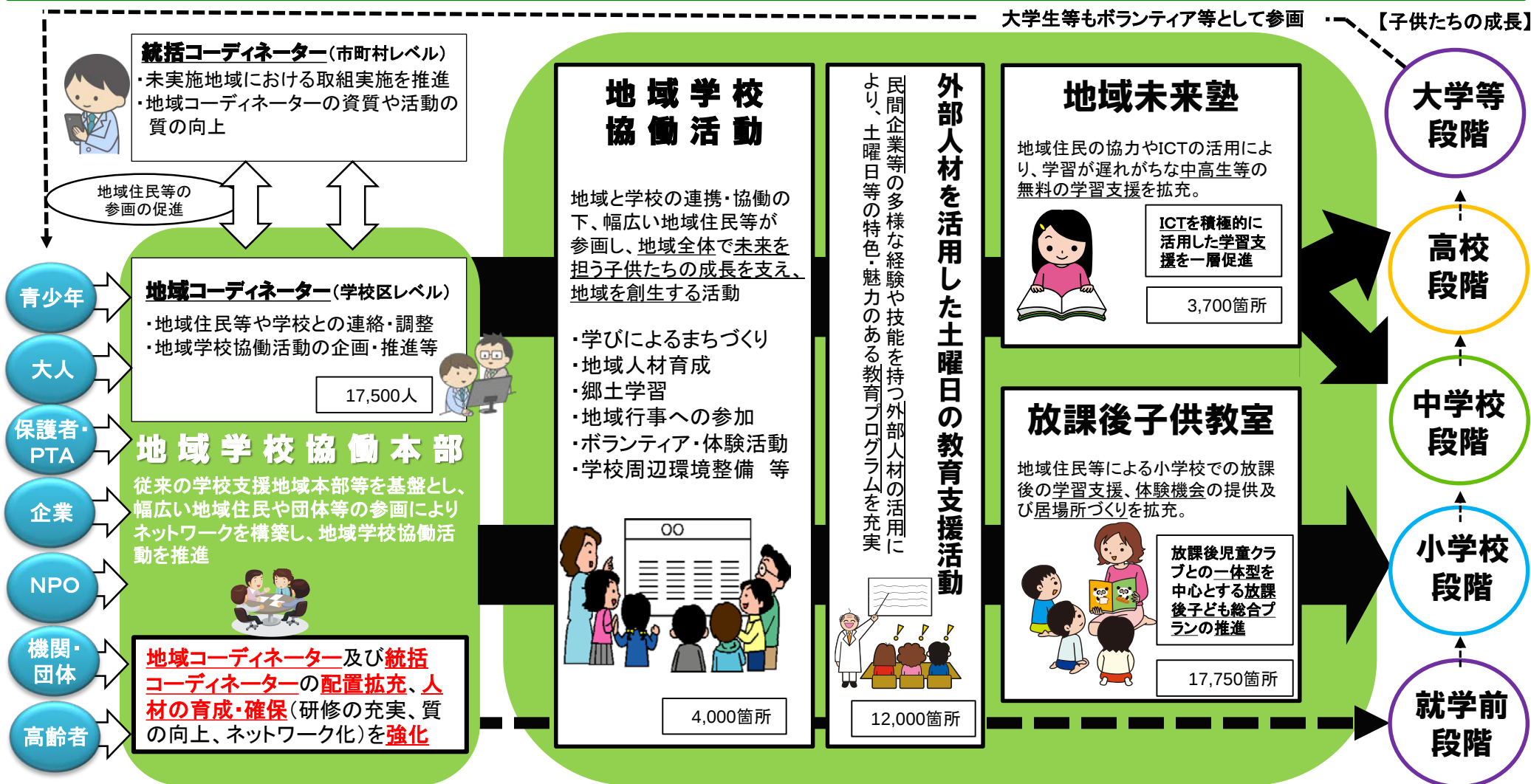
地域学校協働活動推進事業

(平成28年度予算額 6,295百万円)

平成29年度予定額 6,435百万円)

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちの成長を支えるには、地域と学校が連携・協働し、社会総がかりで教育を行うことが必要。平成27年12月の中教審答申（地域と学校の連携・協働）や平成28年1月の「次世代の学校・地域」創生プランに基づき、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、子供たちの成長を支え、地域を創生する「**地域学校協働活動**」を推進するため、地域と学校をつなぐコーディネーターの配置や機能強化により、基盤となる「**地域学校協働本部**」の整備を推進するとともに、学びによるまちづくりや地域人材育成、放課後子供教室、地域住民等による学習支援（地域未来塾）、外部人材の活用による土曜教育の取組を通じて、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。



「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」及び 「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」 実施状況

(学校支援地域本部、地域未来塾、放課後子供教室、土曜日の教育活動)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
国庫補助金額	4,649百万円	4,870百万円	5,071百万円	6,340百万円	6,466百万円
学校支援地域本部 設置数	3,036本部	3,527本部 〔小学校:5,939校 中学校:2,715校〕	3,746本部 〔小学校:6,244校 中学校:2,814校〕	4,146本部 〔小学校:6,568校 中学校:3,039校〕	4,527本部 〔小学校:6,881校 中学校:3,148校〕
地域未来塾 実施数	—	—	—	1,751箇所	2,587箇所 〔中学校:2,439校 高等学校:148校〕
放課後子供教室 実施数	10,098教室	10,376教室	11,991教室	14,392教室	16,027教室
土曜日の教育活動 実施数	—	—	4,845校	10,412校	11,895校
実施市町村数	本部 576市町村 放課後 1,076市町村 土曜 — 市町村	本部 619市町村 放課後 1,090市町村 土曜 — 市町村	本部 628市町村 放課後 1,135市町村 土曜 388市町村	本部 642市町村 未来塾 322市町村 放課後 1,077市町村 土曜 953市町村	本部 669市町村 未来塾 472市町村 放課後 1,097市町村 土曜 1,054市町村

※ 岩手県、宮城県、福島県等の被災自治体は委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」等で実施

地域学校協働活動の実施

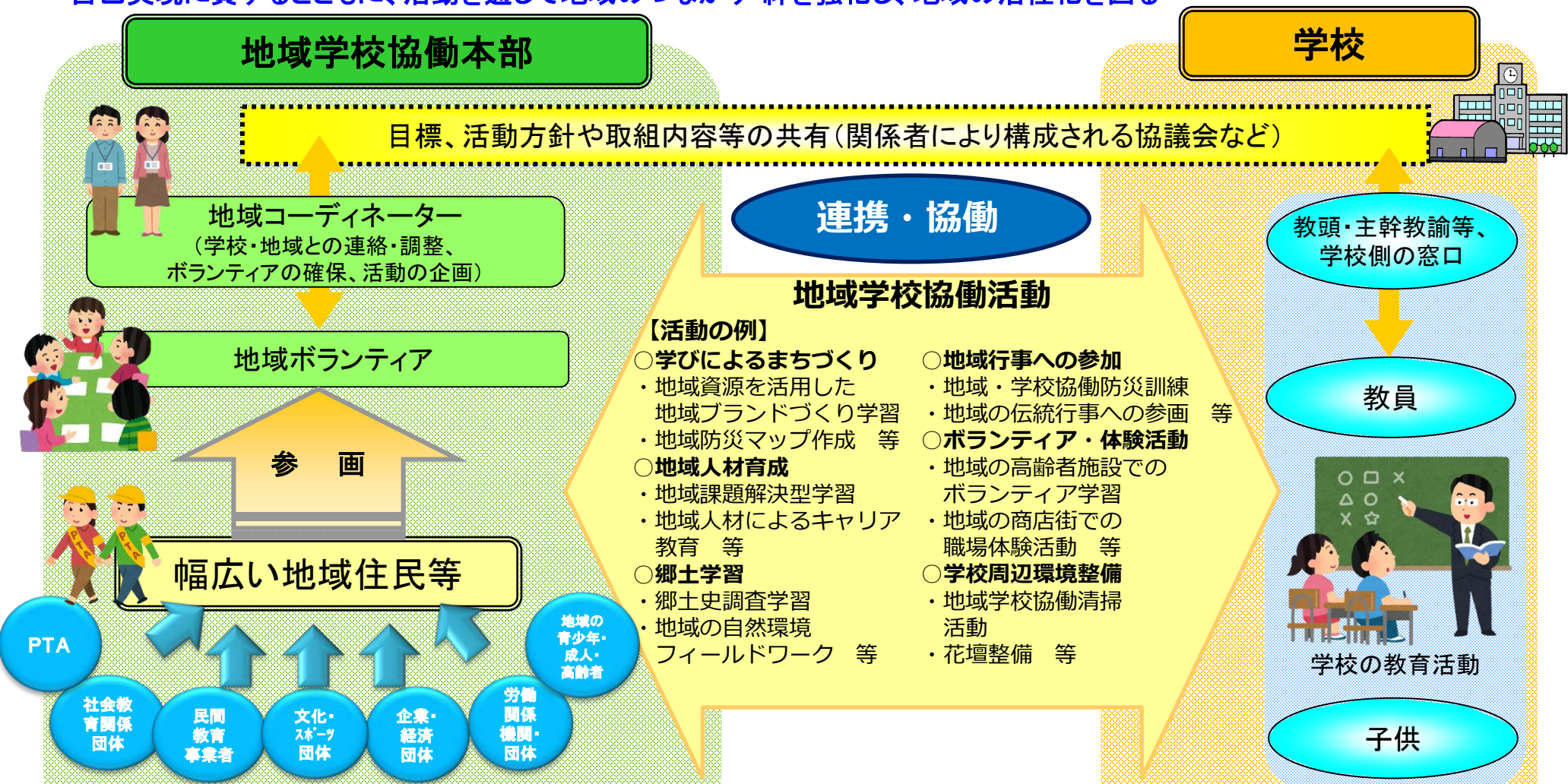
(前年度予算額:6,295百万円の内数)
平成29年度予定額:6,435百万円の内数
地域学校協働活動推進事業の一部で実施

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら、地域全体で子供の成長を支え、地域を創生する活動を実施

➡ 地域と学校が連携・協働する仕組みづくりを促進し、子供たちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の活性化を図る



ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月2日閣議決定)(工程表:抜粋)

・地域と学校との連携・協働の下、高齢者等をはじめとする地域住民の参画により、社会全体として子どもたちの学びや成長を支える活動を、全国的に推進する。

学習支援が必要な中学生・高校生等を対象とした学習支援

～地域住民の協力を得た地域未来塾の充実～

(前年度予算額: 269百万円)

29年度予定額: 322百万円

※地域学校協働活動推進事業 6,435百万円の一部で実施

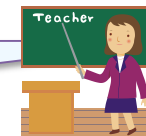
地域未来塾について

中学生・高校生等を対象に、教員OBや大学生など地域住民の協力やICTの活用等による学習支援を実施

- ◆ 経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない中学生・高校生等への地域と学校の連携・協働による学習支援を実施
- ◆ 教員を志望する大学生などの地域住民、学習塾などの民間教育事業者、NPO等の協力やICT機器、学習ソフトウェア等の活用により、多様で効果的な支援が可能



- * 学習支援が必要な中学生・高校生等に対して学習習慣の確立と基礎学力の定着
- * 高等学校・大学等進学率の改善、高校中退の防止、学力・自己肯定感の向上



学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る

全生徒を対象とした学習支援の事例

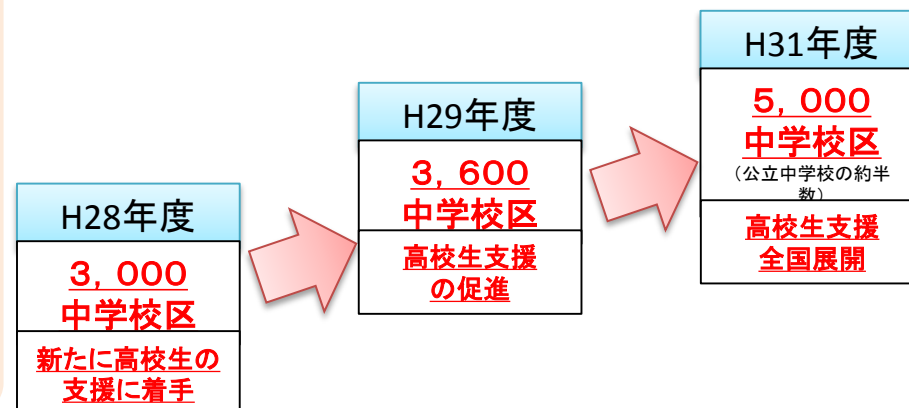
【東京都内のある中学校の取組】

<放課後学習支援>

- ・ 対象は中1～3の希望者
- ・ 年間約80回（学期中の週2回（2時間程度））
 - * 学校の空き教室を利用、無料
- ・ 指導員による個別指導と自習
 - * 指導員：退職教員や教員志望の大学生など



平成31年度末までの目標数



ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月2日閣議決定)(抜粋)

経済的な理由や家庭の事情により学習が遅れがちな子供を支援するため、大学生や元教員等の地域住民の協力及びICTの活用等による原則無料の学習支援を行う地域未来塾を、平成31年度(2019年度)までに全中学校区の約半分に当たる5000ヶ所に拡充し、高校生への支援も実施する。

「地域未来塾」の取組事例

ICTを活用した地域未来塾を実施

町田市立町田第三中学校（東京都町田市）

「Ⅲ中未来塾」の概要

目的・背景：小・中学校の既習事項でのつまづきが課題であったことから、それらを復習しながら、学習習慣や基礎学力を定着させることを目的として実施

対象者／登録者数：中学1年生～3年生希望者

実施教科：国語、社会、数学、理科、英語

実施日・時間等：月曜日～金曜日の放課後の時間（75分間）

実施形態：地域住民の協力とICT機器（タブレット）による自習形式

学習の様子

実施体制等：生徒の1日当たりの平均参加人数 22名、地域住民の1日当たりの平均配置人数 4名



「Ⅲ中未来塾」のポイント

- ICT機器（タブレット）が呼び水になって、生徒が積極的に応募しており、明るい雰囲気の中で前向きに取り組んでいる
- 学習ボランティアとして、地域の教員OBや大学生、保護者（※）等が参加 ※保護者は出欠管理や機器貸し出しのサポートを行う
- 基本的に自習形式で実施しているが、わからないところなどは学習ボランティアが学習のサポートを行う
- 学習に使用しているソフトは、小学校の学習内容についてもフォローしているため、既習事項でわからなくなっているところまで立ち戻り、学習ができる
- タブレット学習ではすぐに解答や解法を確認することができ、学習に集中できる雰囲気があるため、自主学習として取り組みやすい環境となっている

学校・コーディネーター・保護者の声

- 参加希望者が増えているため、拡大していきたい（学校）
- 真面目に学習しており、生徒の意欲が感じられる（コーディネーター）
- 家ではなかなか勉強できないので、学校で、しかもタブレットを使って意欲的に勉強させてもらえてありがたい（保護者）

地域未来塾に参加している生徒の声

- タブレットでの学習はわかりやすく、楽しく勉強ができる。計算をメモしたり、書き直すことが簡単にできるので、紙のドリルより勉強しやすい
- 小学校の勉強も復習でき、自分の苦手なところを克服できた
- 週5日、未来塾に参加しており、放課後に勉強する習慣が定着した 28

「地域未来塾」の取組事例

ICTを活用した地域未来塾を実施

日高村立日高中学校(高知県)

日高中学校放課後学習室の概要

- 目的・背景：日高村では「学社融合」に力を入れており、中学生の学力向上のため、平成25年度から地域未来塾の形式を実施。
- 対象・実施教科：中学1年生～3年生の希望者／数学、英語
- 実施時期・時間：年間90日(平日80日／土曜日等10日)※ICT活用:50日(平日40日／土曜日等10日)
16:00～18:00(月・火・木・金)、15:00～18:00(水)、13:00～16:00(夏期休業)
- 実施体制等：生徒の1日当たりの平均参加人数 40人(試験期間中)
地域住民の1日当たりの平均配置人数 2～3人
- 実施形態：自習形式(試験期間中は授業形式で実施)



日高中学校放課後学習室のポイント

- 従来の指導形式にとらわれずに、学びへのきっかけづくりや指導者の負担軽減を目的としてICT機器を導入。
- 地域住民や塾講師、大学生が支援を実施。
- 通常時はプリントやタブレットを活用して自主学習。
- 試験期間中等、多くの生徒が集まり、共通の課題を解決する場合はプロジェクター等を活用し、授業形式で指導。

ICTを活用したことによる効果

- ICT機器を活用することにより、生徒の学習意欲が向上し、集中して自主学習に取り組む様子が見られた。
- タブレットを使い、多くの生徒が協議しながら課題を解決する姿が見られた。
- 授業形式の際、板書等の時間を省くことができ、生徒への指導時間が増えた。
- 時期によって参加する生徒数に差が生じるが、ICTを活用することで、指導者数を変えることなく生徒数の増減に対応することができる。
- (生徒の声)楽しく集中してできた。時間を忘れて取り組むことができた。大勢での課題解決がよい経験となった。
- (地域住民の声)初めはタブレット等のICT機器の扱いに戸惑ったが、慣れるにつれ活用できるようになっていった。生徒も興味を持って取り組んでおり、楽しく指導できるので、もっとICT機器を活用できるように努力したい。

放課後子供教室 ～放課後子ども総合プランの推進～

(前年度予算額:6,295百万円の内数)
平成29年度予定額:6,435百万円の内数
地域学校協働活動推進事業の一部で実施

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、厚生労働省と連携して総合的な放課後対策を推進

放課後子供教室
(文部科学省)

放課後児童クラブ
(厚生労働省)

『放課後子ども総合プラン』
として、実施 (H26.7月策定)

地域コーディネーター

放課後児童クラブ支援員

連携・協力

双方で情報共有
〈学校区毎の協議会などで一体型・連携型の取組を促進〉

放課後児童クラブに参加している子供が
放課後子供教室の共通プログラムに参加

教育活動推進員
教育活動サポーター
(学習支援や多様なプログラムの
実施、安全管理)

特別支援
サポーター
(特に配慮が必要な
子供たちへの支援)

参画

大学生、地域の高齢者、
民間教育事業者、文化・芸術
団体等の様々な地域人材

特別支援学級の介助員、
ホームヘルパー有資格者、
障害者施設実務経験者など

多様で質の高い
プログラムの提供

【共通プログラムの例】

- 室内での活動
 - ・学習支援(予習・復習、補充学習・ICTを活用した学習活動など)
 - ・多様な体験プログラム(実験・工作教室、英会話、文化・芸術教室など)
- 校庭・体育館での活動
 - ・スポーツ活動(野球、サッカー、バドミントン、卓球、一輪車など)

平成31年度末までの目標を前倒して実現！

【H28年度】
15,500か所

半数は放課後
児童クラブと
一体型

【H29年度】
17,750か所

半数は放課後
児童クラブと
一体型

【H30年度】
20,000か所

半数は放課後
児童クラブと一体型

- ①全ての児童を対象とした学習プログラムの強化・充実
 - ②放課後児童クラブと一体型又は連携型の放課後子供教室を計画的に整備(特に一体型の取組を加速化)
- ※ 一体型推進のインセンティブとして、放課後児童クラブと一体型の放課後子供教室の設備整備やICTを活用した学習支援のための備品整備について、「未来への投資を実現する経済対策」(平成28年8月2日閣議決定)に記載

ニッポン一億総活躍プラン(平成28年6月2日閣議決定)(抜粋)

共働き家庭等の小1の壁を打破するとともに次代を担う人材を育成するため、2019年度末までに放課後児童クラブを約122万人分整備(2014年度以降追加的に30万人分を整備)全小学校区(約2万か所)で放課後児童クラブと放課後子供教室を一体的に又は連携して実施し、うち1万か所以上を一体的に実施する。また、取組の加速化を図るため、引き続き学校施設の活用を促進するとともに、追加的な受け皿整備を2018年度末に前倒して実現するための方策を検討する。

「放課後子ども総合プラン」の推進 (平成26年7月31日策定・公表)

趣旨・目的

- 共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備を進める

取組の現状

	放課後子供教室 (文部科学省)	放課後児童クラブ (厚生労働省)
趣 旨	<u>すべての子供を対象</u> として、学習支援や多様なプログラムを実施	<u>共働き家庭などの小学校に就学している児童を対象</u> として、放課後に適切な遊びや生活の場を提供
H28予算額	52.5億円の内数(27予算額:50.8億円)	582.7億円(27予算額:575.0億円) ※H28予算額には、平成27年度補正予算7.9億円を含む。
実施か所数 (クラブ児童数)	14,392か所(平成27年8月)	22,608か所(1,024,635人)(平成27年5月)
実施場所	小学校 74.0%、その他(公民館、中学校など) 26.0%(平成27年8月)	小学校 53.1%、その他(児童館、公的施設など) 46.9%(平成27年5月)



今後の方向性

【4つの推進方策】

- 市町村行動計画等に基づく計画的な整備
- 学校施設の徹底活用
- 共通プログラムの充実
- 総合教育会議の活用による総合的な放課後対策の充実

国全体の目標(平成31年度末まで)

- 全小学校区(約2万か所)で両事業を一体的に又は連携して実施し、うち 1万か所以上を一体型で実施
- 放課後児童クラブについて、約30万人分を新たに整備(約94万人⇒約122万人)
- 新規開設分の約80%を小学校内で実施

放課後子供教室と放課後児童クラブの一体的な取組

～前田いきいきタイム(放課後子供教室)・前田小児童クラブ(放課後児童クラブ)～ 秋田県 北秋田市

活動の概要

- ・北秋田市立前田小学校の放課後子供教室(前田いきいきタイム)は学校の余裕教室等を活用し、週に1回程度活動をしている。
- ・学校の校舎に隣接して保育園と放課後児童クラブ(前田小児童クラブ)の専用施設があり、放課後子供教室との一体型として活動している。

実施内容

	前田いきいきタイム (教室)	前田小児童クラブ (クラブ)
対象	1～6年生	1～6年生
開催日数	40日	290日
主な開催日	週1回程度	月～土
子どもの平均参加人数	15人	41人
開催場所	体育館・校庭・図書室等	小学校内専用教室

主な活動事例

自然体験を中心に様々な体験活動を実施

- ・ 畑づくり
ジャガイモや枝豆などの栽培を通じて植物が育つ過程を学ぶ
- ・ 植物を活用したクラフト教室
学校周辺を探検して拾った植物などを活用したクリスマスリースづくりなど



写真
《上》枝豆収穫の様子
《左》地域探検の様子

ポイント

- 両事業のスタッフが放課後子供教室の活動(交流活動)と一緒に企画・運営している一体型の取組。
- 北秋田市の子供教室では、地域の方による、読み聞かせや昔遊びなどを実施し、夏休みには、地域の名所巡りや、近隣の地区の子供教室に出向き、その地域の子供たちとの交流活動などを行っている。
- 子育ての経験がある地域の方が事業に協力している。

取組の効果

- ・保護者へのアンケートで放課後子供教室の体験活動へ期待するとの回答が90%以上となっている。
- ・放課後子供教室の企画に参加する児童のうち、過半数以上が放課後児童クラブに所属しており、異年齢交流や多様な体験・活動につながっている。

放課後子供教室の学習支援におけるICTの活用事例

富士見台スキルアップ・スタディ（スキスタ）《豊島区「補習支援チューター事業」》

豊島区立富士見台小学校

豊島区「補習支援チューター事業」の概要

- 学習の基礎的な理解、学習習慣の定着等に対応するため、放課後子供教室の学びのプログラムのひとつとして当該事業を組み込み、放課後や長期休暇中に学習支援を実施。
- 豊島区で児童に対する意識調査を行った結果、ICTを活用した授業が「分かりやすい」といった、肯定的な回答が8割を超えるなど、ICTの活用について教育課程内で一定の効果が得られたことから放課後等における学習支援にICTを導入。

富士見台スキルアップ・スタディ（H27～）の概要

- 目的：子供たち一人一人の「学びの基礎・基本」の補習
- 対象：小学3年～6年生の希望者（定員30名）
- 実施日時：毎週金曜日 15:30～16:15
- 実施場所：学校内パソコンルーム
- 実施体制：チューター（講師）が1日当たり2名（大学生）
- 実施内容
 - ① タブレット学習（児童の自主学習）
 - ② ベーシックテスト（プリント学習）
 - ③ タブレット学習（東京都教育委員会作成のベーシック・ドリルを活用）

富士見台スキルアップ・スタディのポイント・効果

- 算数におけるつまづきは今後の算数・数学への理解に大きな影響を及ぼすことから、算数に対する苦手意識をできる限り早期に克服するため、算数の少人数学習に注力。
- チューターは児童の丸付けなど、教員と連携・協働しながら学習を支援。各チューターは、引継ノートで情報共有を図っている。
- 参加する児童の学年は異なるが、全員同じレベルからスタート。上位レベルに進むための明確な基準（不正解数）を設定。
- 学力差を否定するのではなく、各自の目標に向かって頑張る姿を互いに認められるようになったほか、スキスタ参加児童が参加していない児童に教える姿が見られるようになった。



ICT機器活用の効果

- 動画を見ることで子供たちの関心が高まっている。
- 興味関心を引き出せており、算数が苦手な児童でも、継続して参加している。
- 文字で理解することが不得意な児童もおり、動画や映像が効果的。

外部人材を活用した土曜日の教育支援活動

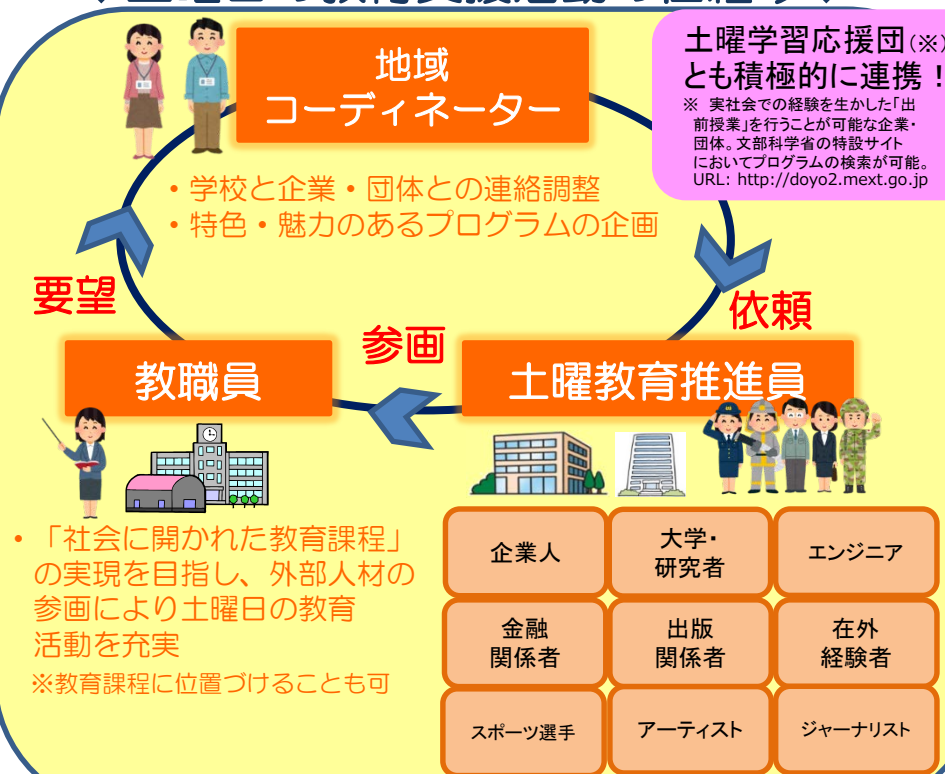
【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

平成29年度予定額:6,435百万円の内数(新規)
地域学校協働活動推進事業の一部で実施

全ての子どもたちの土曜日等の教育活動を充実するため、民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施する市町村・学校等の取組を支援することにより、地域と学校の連携・協働による教育活動を推進し、地域の活性化を図る(12,000か所)(小学校・中学校・高校など)

◆土曜日の教育支援活動の仕組み◆



◆実践例◆

◆社会に開かれた教育プログラム

【算数・数学】

企業エンジニアによるICTを活用したプログラミング講座

【理科】

航空工学団体によるロケット発射実験教室

【体育】

地域のプロバスケット選手によるバスケット教室

◆グローバル化対応プログラム

在外経験者による英会話・プレゼン教室

◆社会適応力育成プログラム

金融関係者による経営・金融・経済体験学習

◆地域学習

NPO・団体等の協力による地域の伝統芸能体験学習、環境課題解決

企業・団体ならではの
実社会で得られた知識や経験を子供たちへ！

日本再興戦略2016(平成28年6月2日閣議決定)(抜粋)

- ・ 初等中等教育において、社会や世界の変化に対応した「社会に開かれた教育課程」を地域社会と連携しながら実現
- ・ 学校現場に民間等の外部人材の活用を図ることが重要であるため、地域・社会との連携・協働を推進する

外部人材の活用によるロボット＆プログラミング教室の取組事例

子供たちの科学技術やものづくりへの興味・関心を応援する教室

(東京都大田区)

取組の概要

- 学校の授業以外の多様な主体による教育活動で、地域コーディネーターが企業(アイエックス・ナレッジ株式会社)と連携して実施

開催場所:大田区立中萩中小学校

開催日:夏休みの平日

参加対象者:小学校4～6年生(16名)

プログラムの特色

- プログラムを作る過程で、論理力と思考力のサイクルを繰り返し、課題解決に導く能力を醸成

教室の内容

1. 導入(身近にあるロボットには何があるか)
2. ロボットキットの組み立て
3. プログラミングの練習とプログラム課題(楕円コースに沿って走る)のプログラミング
4. 楕円コースに沿って走らせる

参加者の声

- 子供たちの声
 - ・どのように組み合わせるかで、プログラムが変わるので難しかったが、だんだんとわかるようになり楽しかった。
- 教員の声
 - ・子供の創造性を伸ばす興味深い内容。子供たちが自らチャレンジし、目が輝いていた。
 - ・企業との連携により学校教育では難しいことができる内容となっている。
- 保護者の声
 - ・子供たちには難しいかと思ったが、自分たちでパソコンも使いこなし、設定した秒数で車を走らせることができ、子供の能力はすごいと思った。



【ロボットを組み立てている様子】



【プログラミングの練習している様子】



【楕円コースに沿って走らせる様子】

外部人材の活用による造形的な創造活動の取組事例

デザインを通して、感性を働かせながら創造することへの興味・関心を高める教室 (東京都小平市)

取組の概要

- 学校の授業において、地域コーディネーターが企業(日本アパレル・ファッション産業協会)と連携して実施
- 開催場所:小平市立小平第十三小学校
- 開催日:平日の授業(図工) ※計10コマの授業のうち初回と最後の発表会をサポート
- 参加対象者:小学校6年生3クラス(82名)

プログラムの特色

- ファッションについて、興味関心を広げるきっかけづくりとする。
- 感性や想像力を働かせながら表現する喜びを知る。
- 2点の目的を達成するために、日頃からファッションに関する自主的な活動を実践する大学生が、サポーターとしてかかわる導入プログラムである。

教室の内容

1. 導入
 - ・ファッションショーの映像を見ながら、洋服についての理解を深める
 - ・少人数のグループに分かれて、テーマや場面を考えながらデザインする。
 - ・洋服に使用する生地の種類や素材に触れてイメージを膨らませる。
2. 児童の自主性を大切にして準備し、発表会の当日の運営も児童が中心となる。

参加者の声

- 子供たちの声
 - ・自由な発想で、洋服をデザインできることが楽しかった。
- 教員の声
 - ・導入部分での学生の関わりにより、児童の興味関心を高め、意欲的に取り組むことができた。
 - ・企業から生地等の素材を寄贈していただいたことで、児童の活動の幅が広がった。
- 地域コーディネーターの声
 - ・学生の柔軟性ある助言や表情は、児童にとって具体的な洋服のイメージにつながった。
 - ・学生自身も、児童と触れ合うことで多様な学びを獲得できる機会となった。



【洋服についての理解を深める】



【テーマや場面を考えながらデザインする様子】

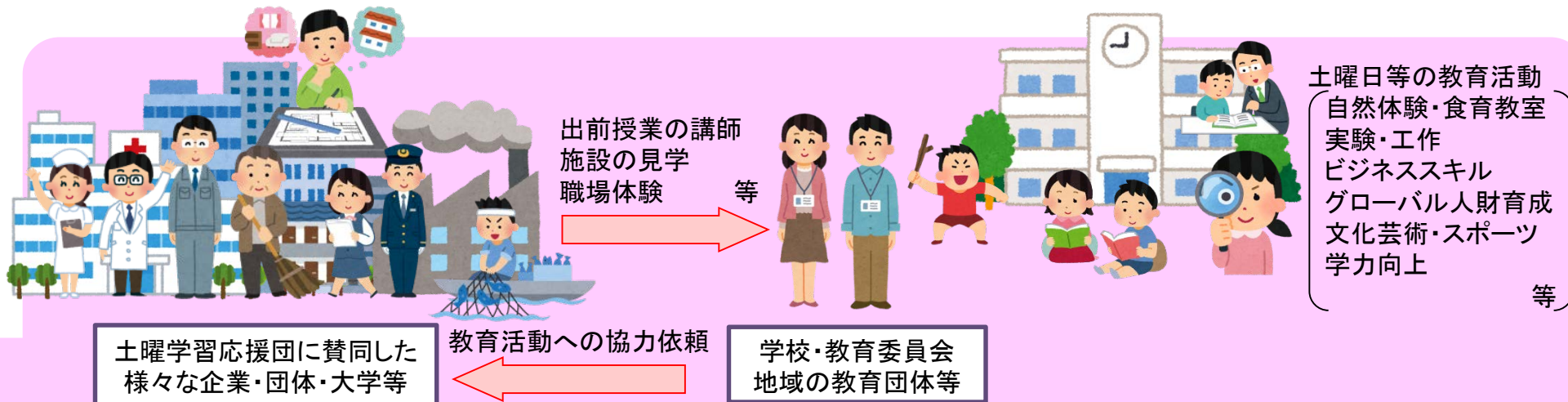


【グループで洋服をデザインする様子】

土曜学習応援団について

～企業・団体等の出前授業により、特色・魅力ある教育活動を推進～

文部科学省では、平成26年4月より子供の豊かな学びを支えるために、多様な企業・団体・大学等に「土曜学習応援団」に御賛同（御参画）いただき、土曜日をはじめとして、夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等の教育活動に出前授業の講師や施設見学の受入等により参加していただくことで特色・魅力のある教育活動を推進。（平成28年12月段階で715団体が賛同）



ホームページ等による
応援団の情報提供

土曜学習応援団 ホームページ
URL: <http://doyo2.mext.go.jp>

* 賛同企業等の一覧や各企業等の取組を紹介

- * 幼稚園・保育園～高校までを対象、他に、親子での参加も可能
- * 土曜日をはじめとして夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等を対象

☀ 土曜学習応援団が、出前授業等の講師として参加している事例 ☀



化学の不思議を伝える
「化学実験教室」



災害に備える力を養う
「防災教室」

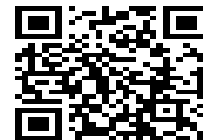


地球温暖化を考える
燃料電池を使用した
「発電実験教室」

*賛同企業等の一覧や
取組を紹介しています

【土曜学習応援団に関するWEBサイト】

URL: <http://doyo2.mext.go.jp>



お住まいの地域や学習テーマ、企業や団体等の業種などからワンクリックで連携可能な企業・団体の情報や、実施可能な学習プログラムに関する情報にアクセスできます！
(情報は随時追加します) その他、企業や団体等における教育活動に関する最新情報を掲載しています。

教科・学習テーマ・実施
エリア(都道府県)・対象
学年・開催可能日・開催
場所・業種で検索できます



業種・実施エリア
(都道府県)で
検索できます

😊 学習プログラムを探す

🏢 賛同企業・団体を探す

🌐 土曜学習応援団とは

教科から探す

小学校国語(9)
小学校社会(70)
小学校算数(6)
小学校理科(52)
小学校生活(41)
小学校図画工作(15)
小学校家庭(41)
小学校体育(16)
小学校道徳(26)
小学校外国語活動(9)

See more...

学習テーマから探す

著作権(1)
環境教育(37)
食育(48)
地域理解(33)
福祉・医療・介護(14)
情報教育(19)
野外体験(8)
職業教育(59)
金融・経済(31)
国際理解(30)

See more...

実施エリアから探す

全国(108)
全国(施設体験・見学)(1)
全国(教材の提供)(6)
北海道(15)
青森県
岩手県
宮城県
秋田県
山形県
福島県

See more...

対象学年から探す

幼稚園・保育園(41)
小学校1年生(98)
小学校2年生(100)
小学校3年生(131)
小学校4年生(178)

開催可能曜日から探す

平日(206)
土曜日(201)
日曜日(168)
春休み(194)
夏休み(201)

開催場所から探す

See more...

業種から探す

農業・林業・漁業・鉱業(5)
建設(4)
食品・飲料(14)
電気・ガス・水道(7)

企業のプログラム例

- ・化学の不思議を伝える「化学実験教室」
- ・災害に備える力を養う「防災教室」
- ・地球温暖化を考える燃料電池を使用した「発電実験教室」等

